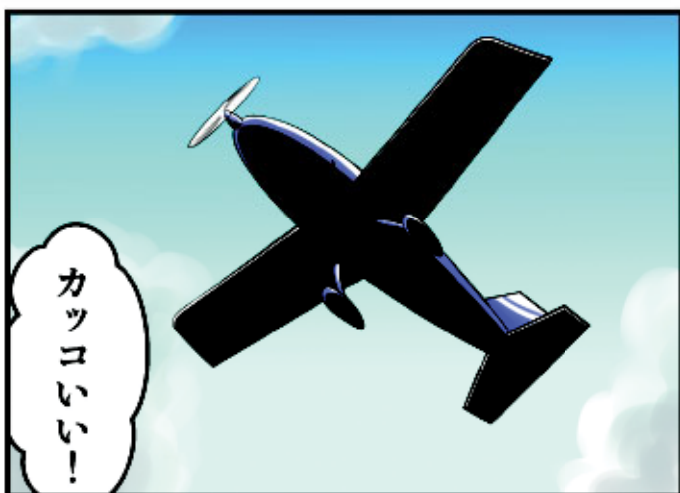


みんかんこうくうはっしょう

# 民間航空発祥の地 自由な空を求めて

作画 青空ぼんちょ

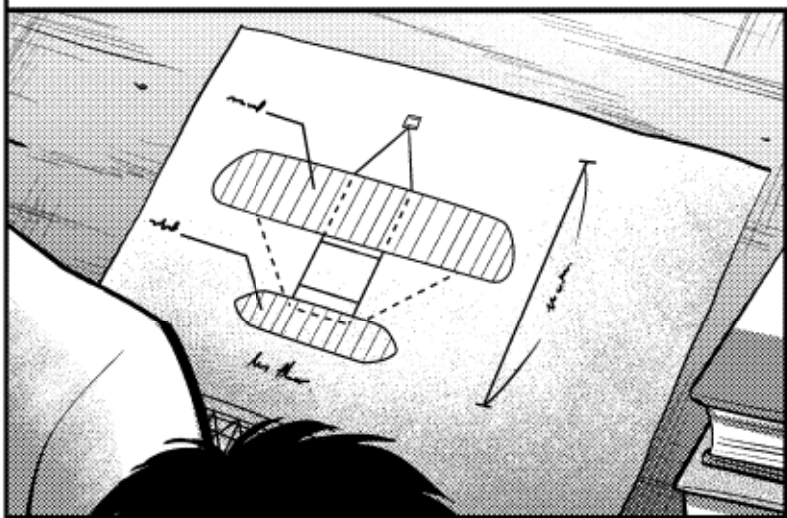




その中に  
奈良原三次がいた

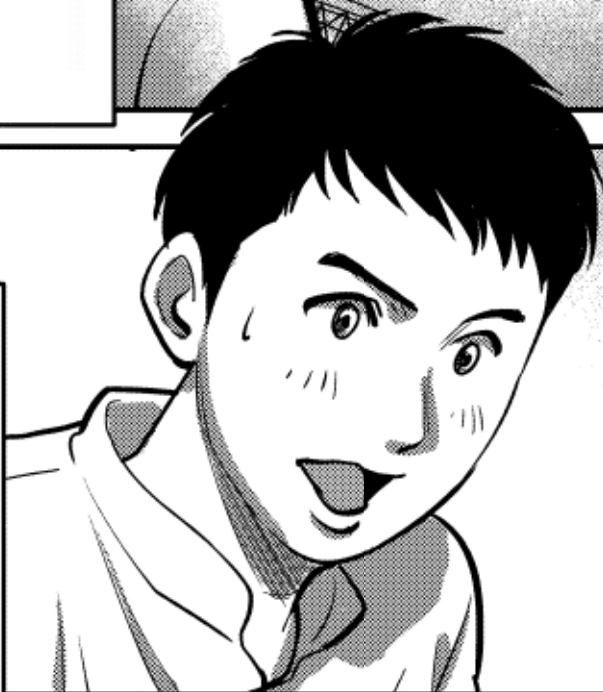


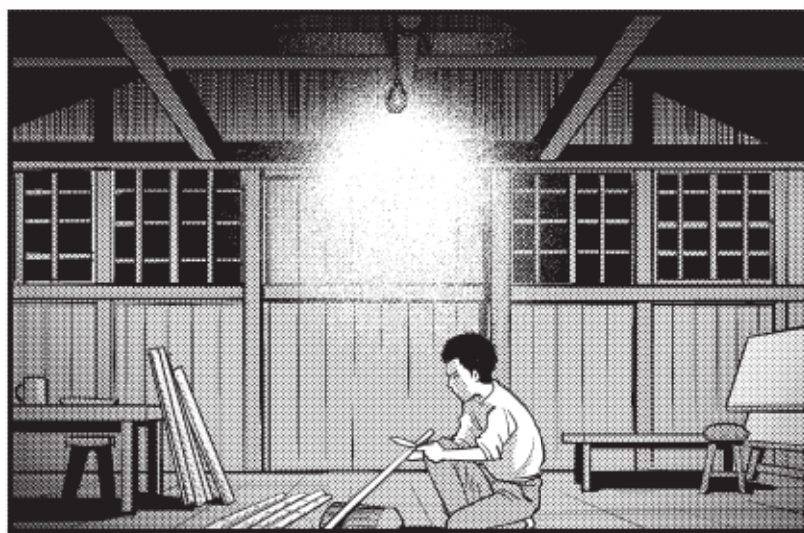
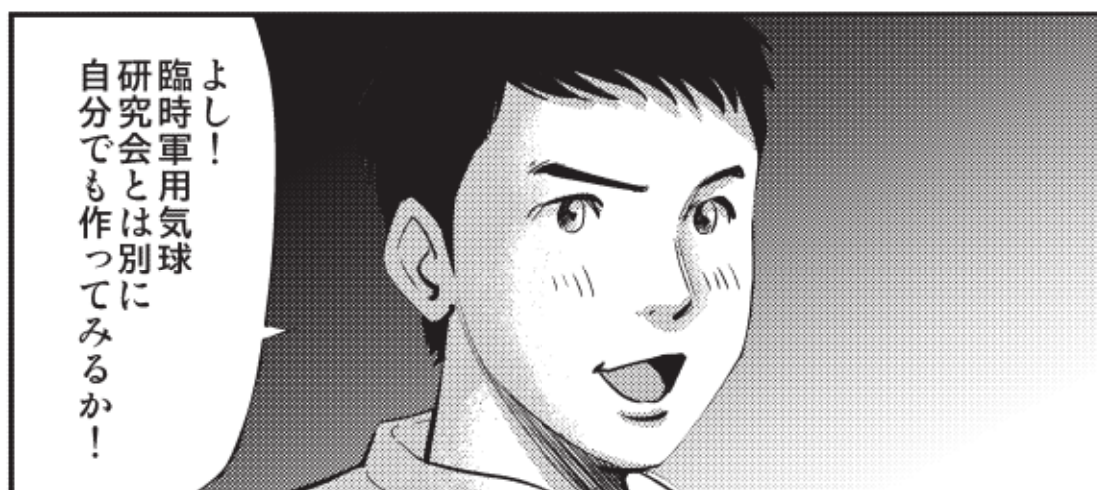
奈良原は  
1908(明治41)年に  
東京帝国大学(現・東京大学)  
造兵科を卒業し  
海軍に任官した人物だった



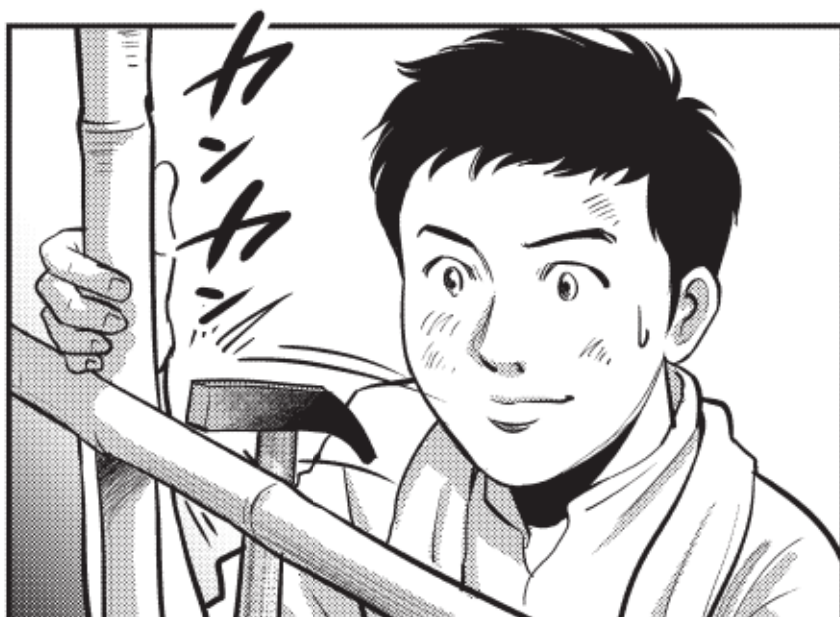
これで本当に  
空を飛ぶことが  
できるのか……

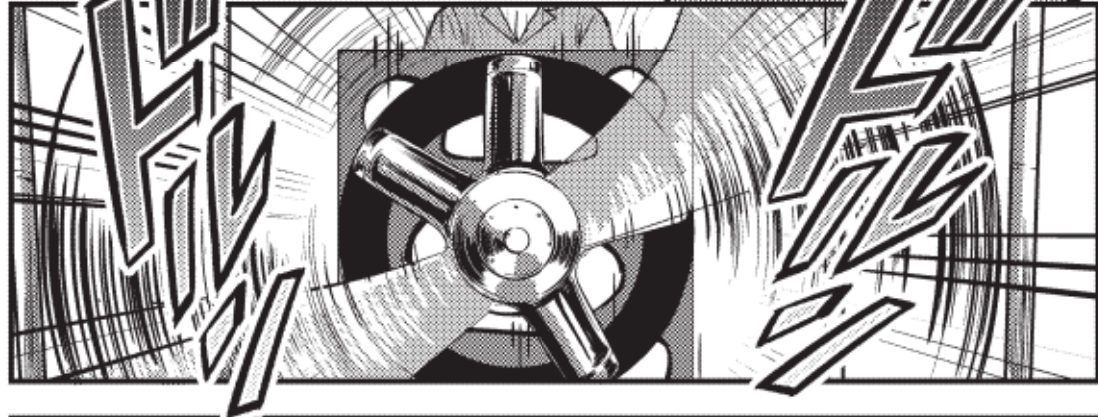
奈良原にとって  
飛行機研究は  
こころ躍るものだった

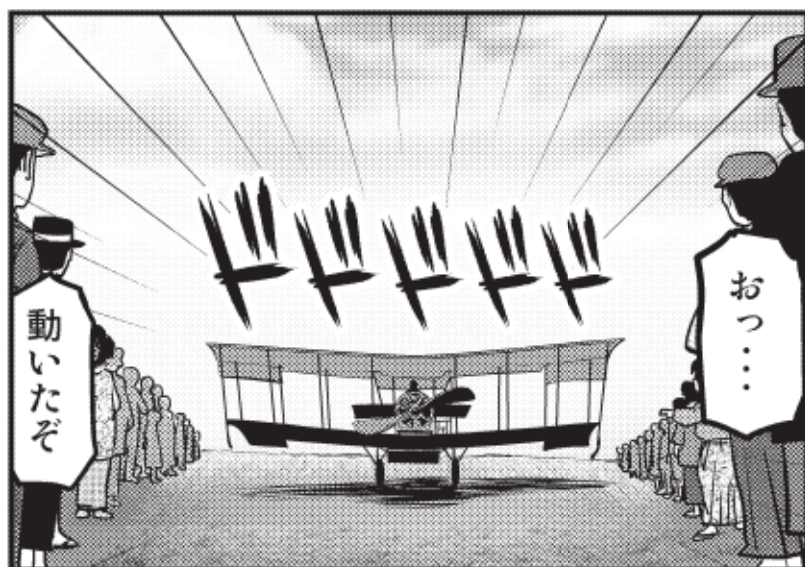


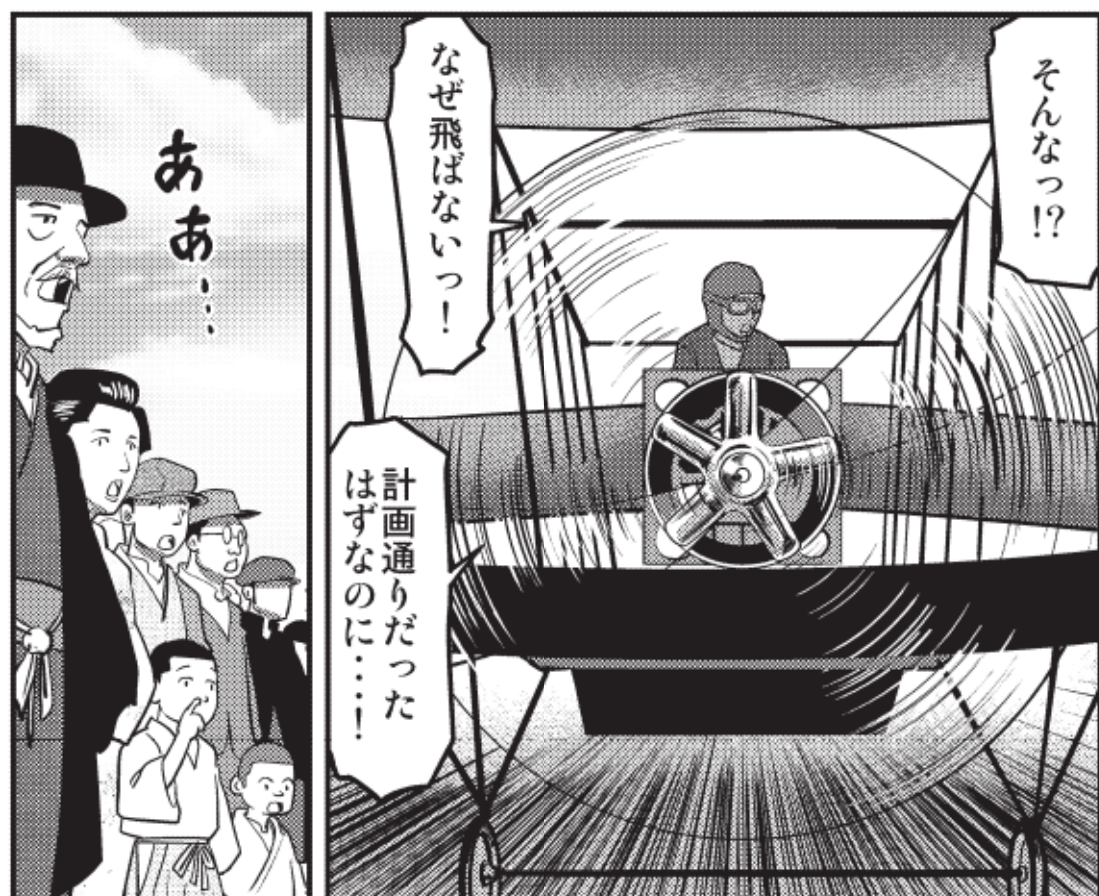
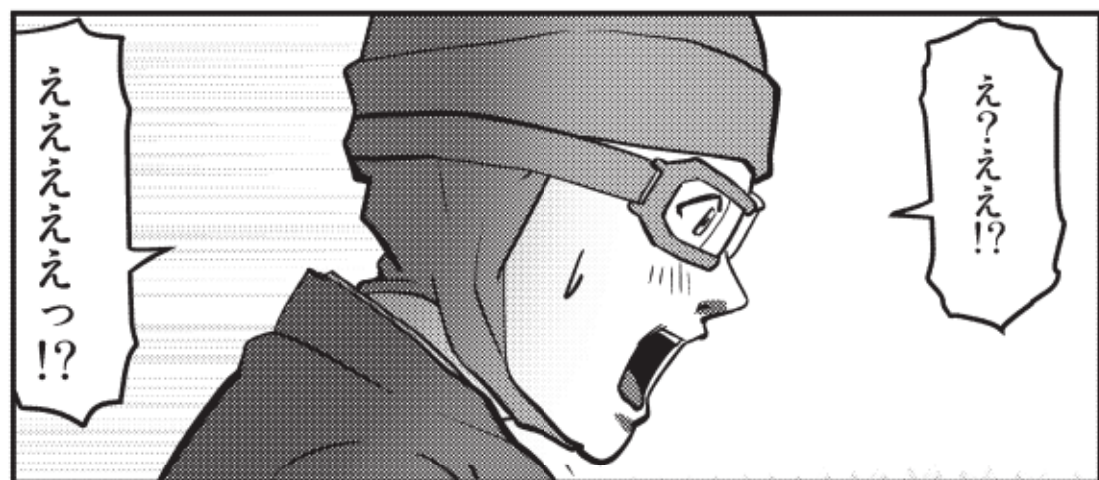
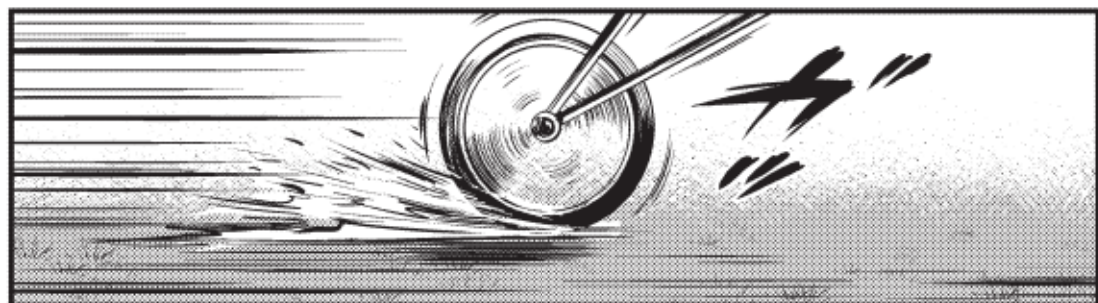


奈良原は  
公式の仕事とは別に  
竹材を使って  
『奈良原式1号飛行機』の  
製作にかかる











原因を調べてみると  
発注したノーム50馬力の  
エンジンではなく  
アンザニー25馬力が  
送られてきていた

つまり馬力不足  
だったのだ

これじゃあ  
飛ぶわけがないか…

次こそ大空を  
駆け巡るぞ！

おおっ！

奈良原は飛行機の製作に  
力を注ぐため  
海軍を退く

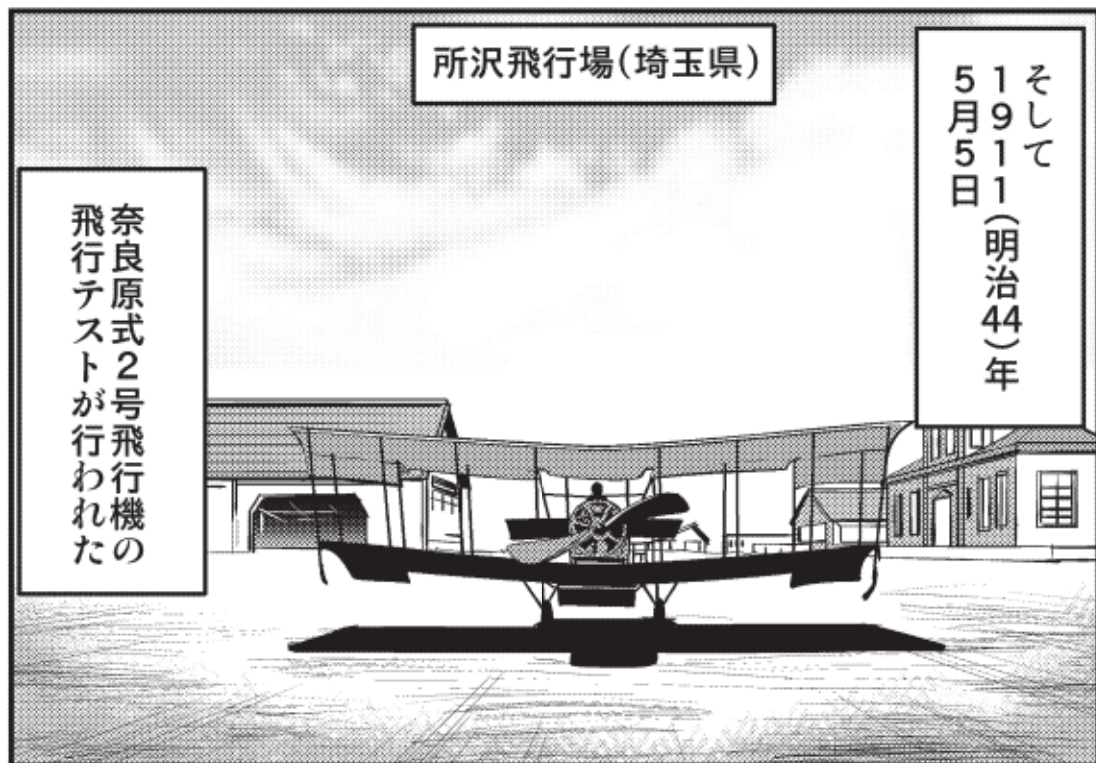
自分で作った飛行機を  
飛ばしたいんです！

奈良原くんっ！

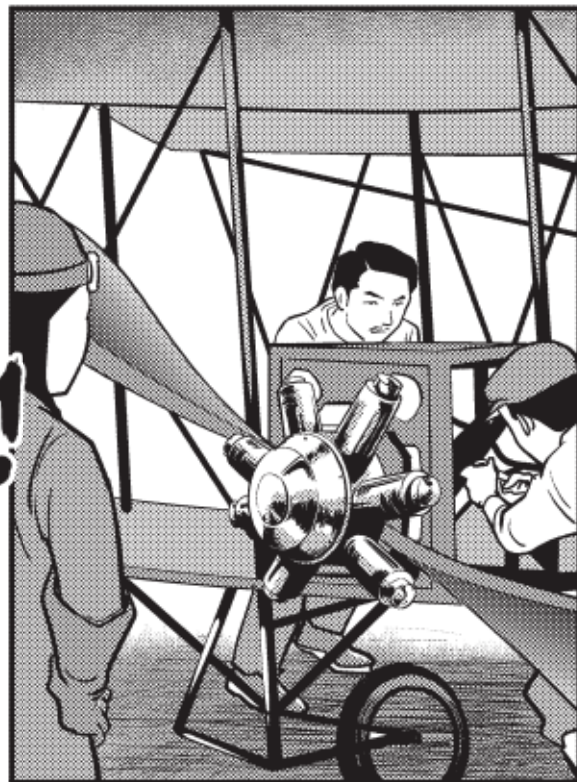
所沢飛行場(埼玉県)

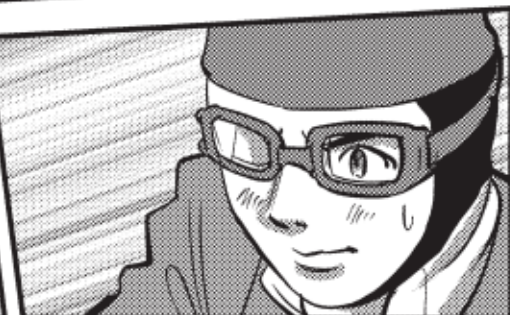
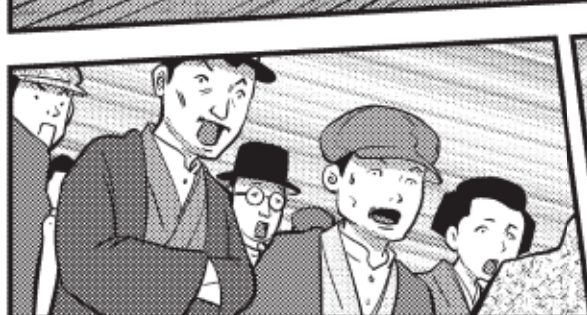
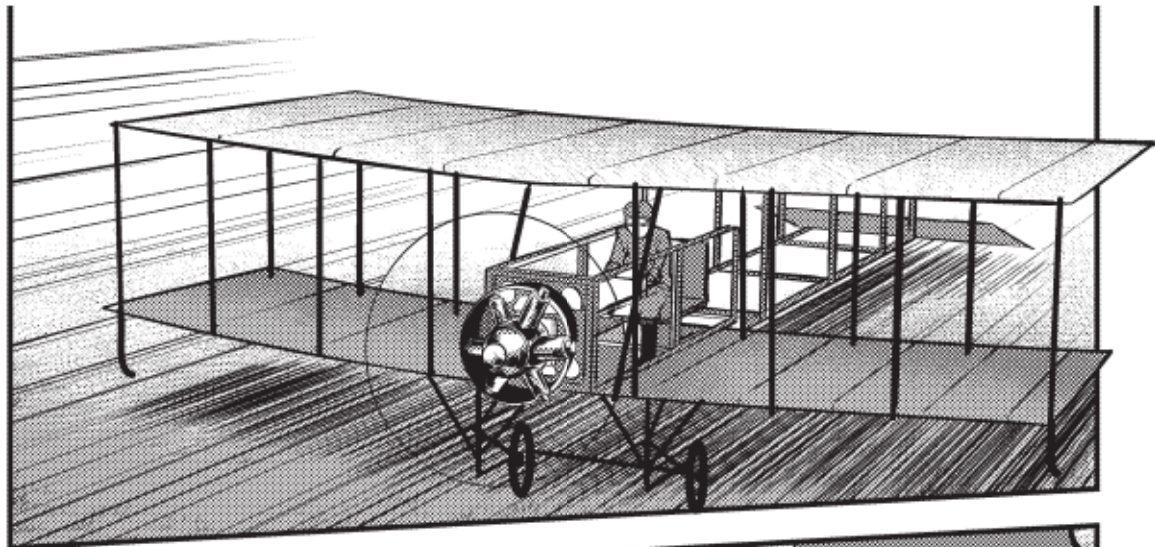
そして  
1911  
5月5日 (明治44)年

奈良原式2号飛行機の  
飛行テストが行われた



今度こそ  
飛んでくれよ

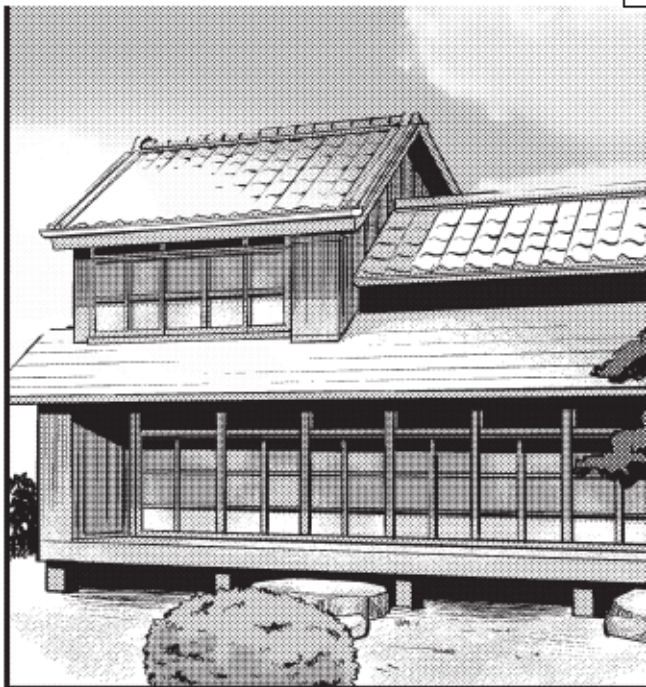




やった！  
ついに飛んだぞっ！！

奈良原式2号飛行機は  
高度4m、距離60mを飛び  
国産機による初の飛行に  
成功した





稲毛海岸

趣味の狩猟の際に  
立ち寄った稲毛海岸で  
衝撃を受ける

広い！  
いつたいどこまで  
続いているんだ  
この干潟は……

荷馬車が通れるほど  
固くしまっているから  
飛行機だって大丈夫  
ですよ

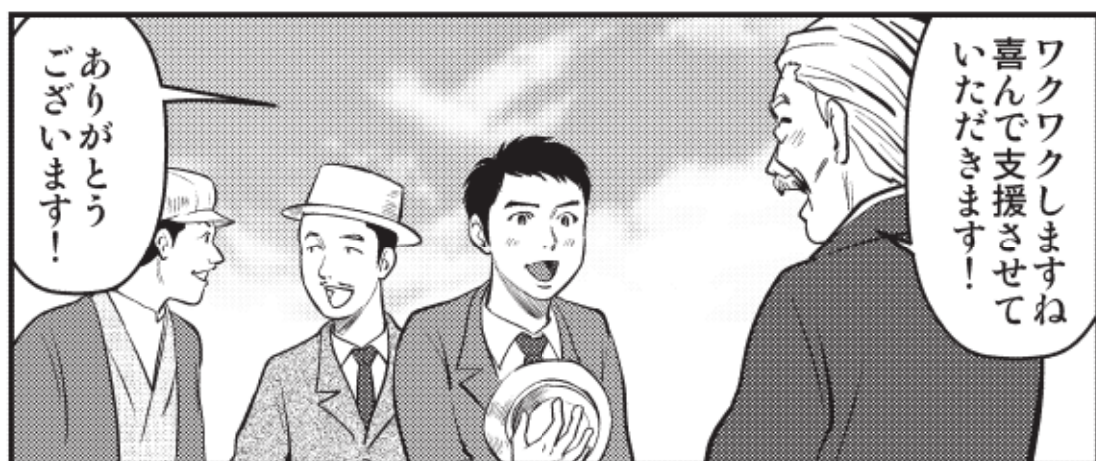
本当か!?

よーし！  
ここを飛行場としよう！

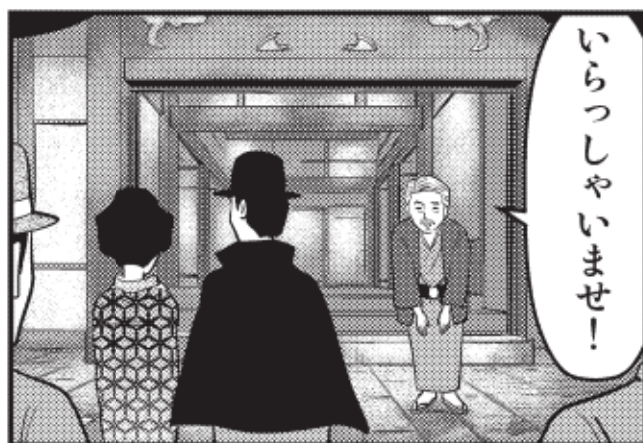
けどそんな資金は  
あるのかね？

ない！

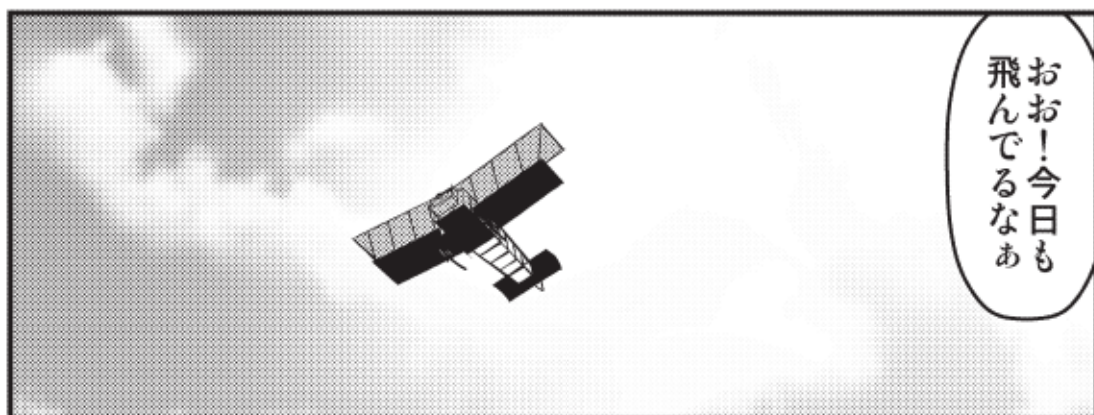
けどきつと同じ夢を  
見てくれる人は  
いるはずさ！



※海気館・・・1888(明治21)年、稲毛浅間神社に続く広い松林の中に開業した保養所。  
島崎藤村、森鷗外などの文人が執筆や静養のために滞在し、多くの文学作品にその名が登場する。



いらっしやいませ!



おお! 今日も  
飛んでるなあ



奈良原式4号飛行機  
「鳳号」を操縦し民間操縦士  
第1号となった白戸栄之助も  
その一人だ

白戸は  
教官としても活躍し  
多くの操縦士を育てた



その後奈良原のもとで  
修行していた弟子たちも

市内に格納庫を作り  
大空への挑戦を続けることになる

伊藤音次郎  
いとうおとじろう

大阪に生まれ  
地金問屋で奉公人として  
働いていたが

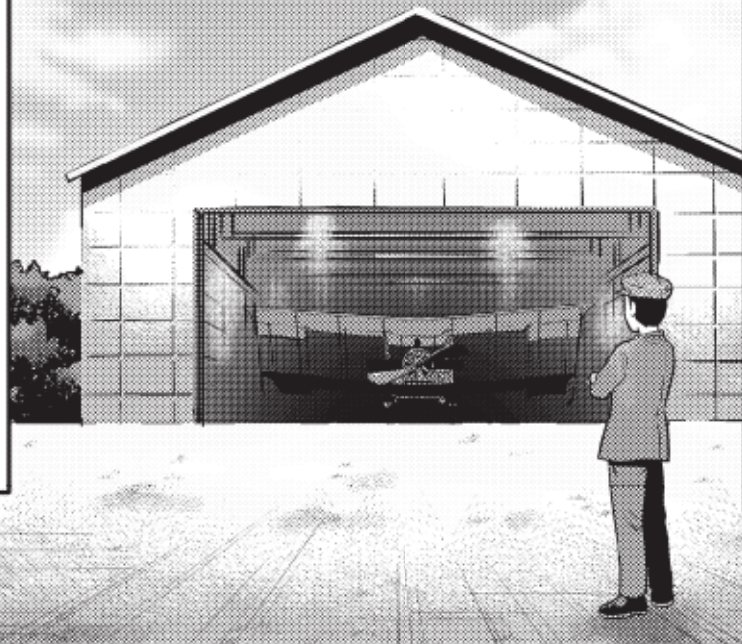
ライト兄弟飛行の  
活動写真を見て  
飛行機に心を奪われ



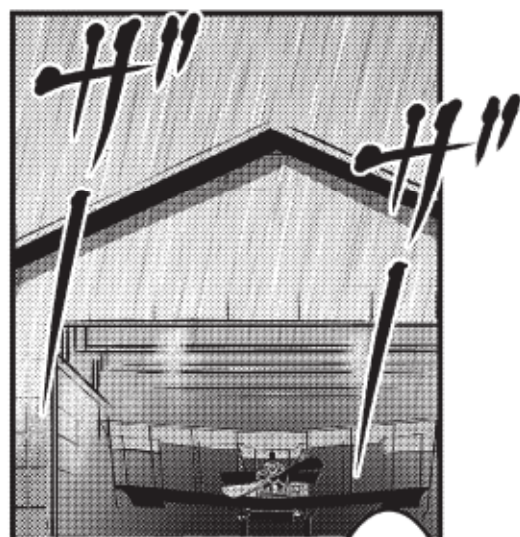
19歳の時に  
奈良原に弟子入りし  
飛行技術は  
白戸に学んだ

1915(大正4)年に独立し  
稲毛の地に  
伊藤飛行機研究所を創立

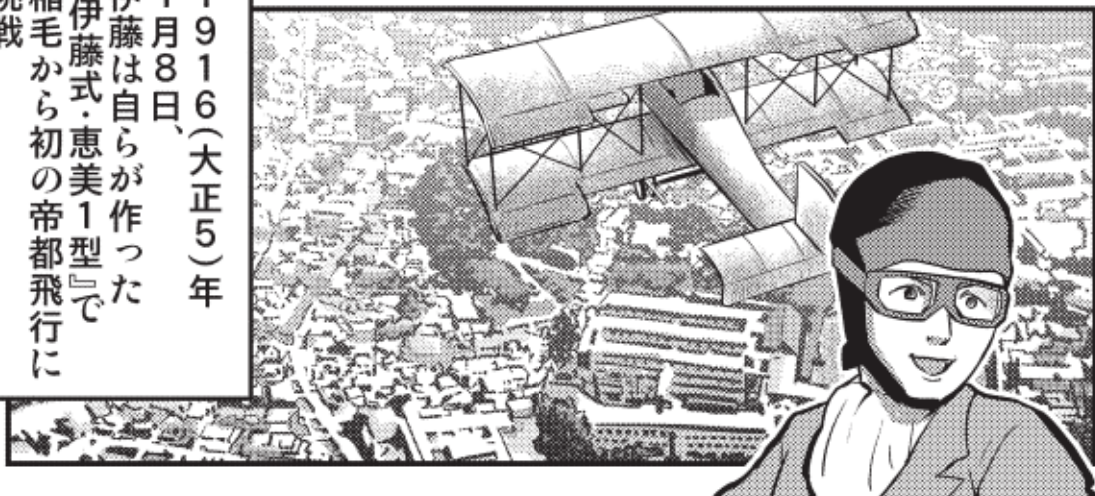
精力的に  
飛行機の製作に着手した



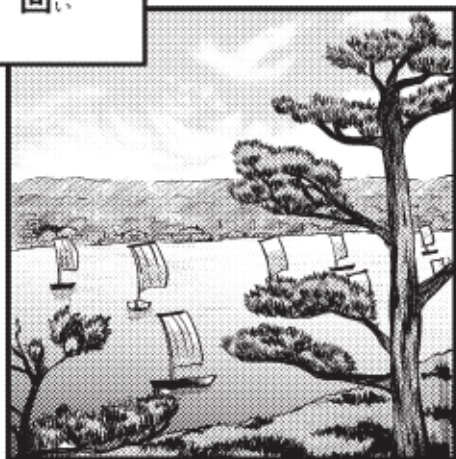
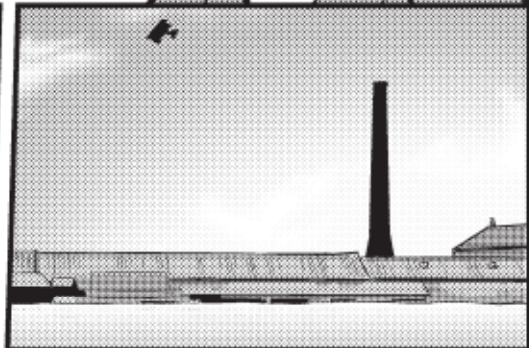




1916(大正5)年  
1月8日、  
伊藤は自らが作った  
『伊藤式・恵美1型』で  
稲毛から初の帝都飛行に  
挑戦



昼すぎに離陸し  
浜離宮上空で左旋回



飛行時間55分で  
千葉へもどる  
往復飛行に成功した





よくやった!



はい!

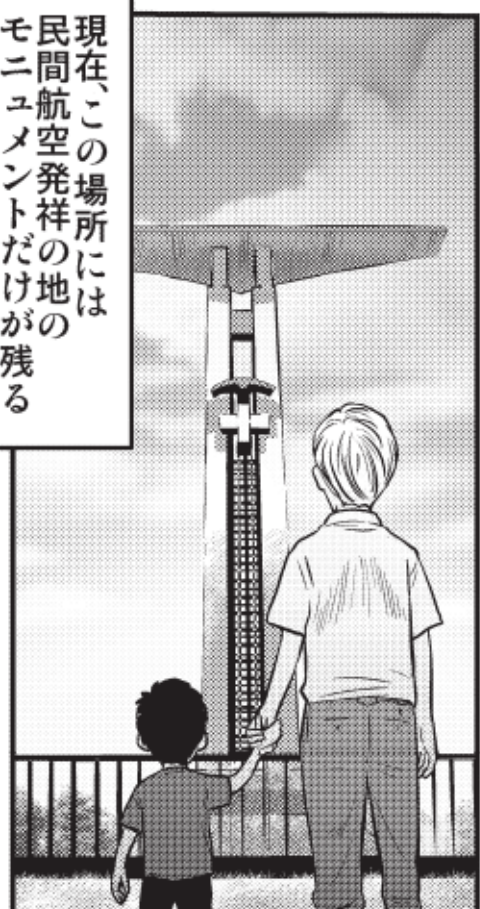
何もないところから...  
皆さんののおかげ  
です!

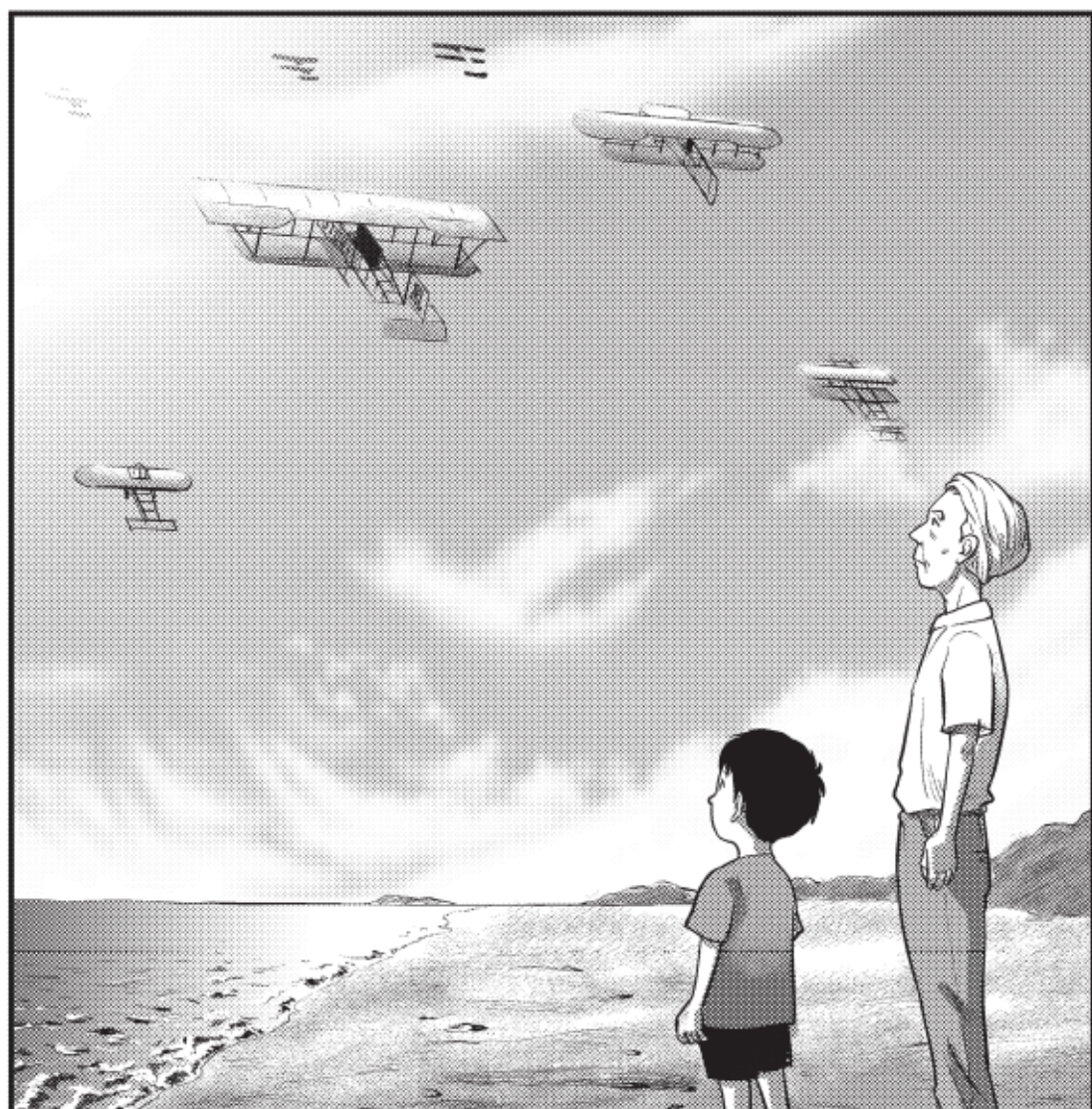
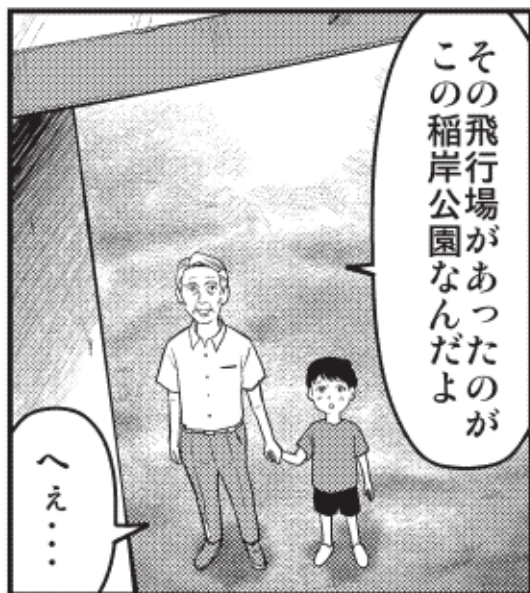
その後稲毛の飛行場は  
高潮によって壊され  
1917(大正6)年閉鎖



短い歴史に  
幕を下ろした

現在、この場所には  
民間航空発祥の地の  
モニュメントだけが  
残る





## 民間航空発祥の地

## 自由な空を求めて



●遠浅の海に現れた干潟の滑走路

稲毛海岸の干潟は固く、荷馬車が通っても沈むことはなかったという。



●海岸に立ち並ぶ格納庫

1917年9月、高潮によって壊滅的な被害を受け、移転を余儀なくされた伊藤首次郎の伊藤飛行機研究所。



●奈良原式4号飛行機鳳号

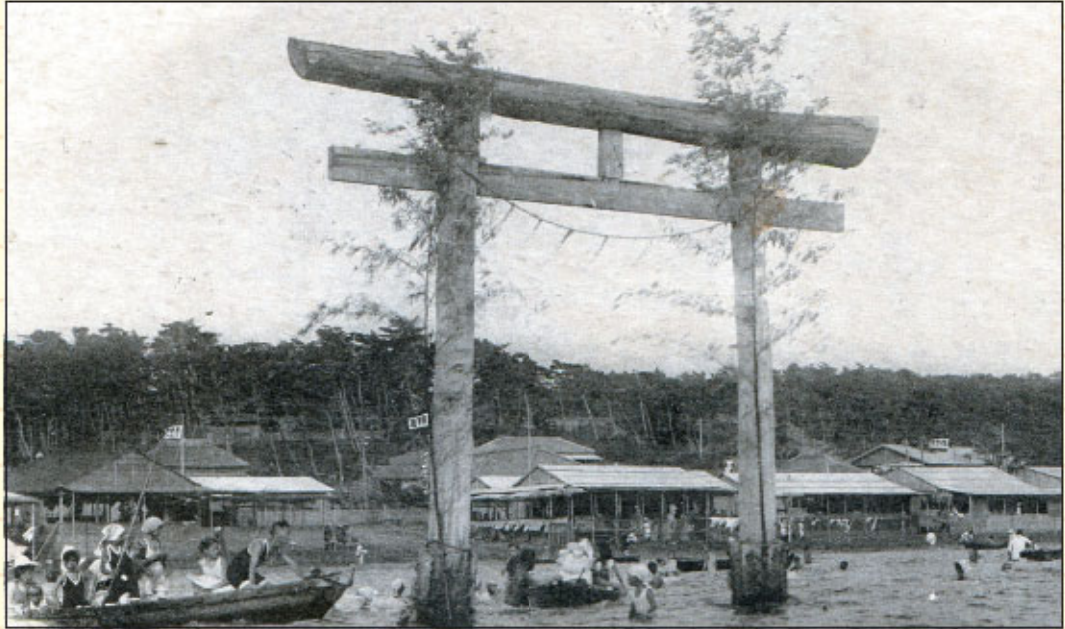
当時、人気を博していた千葉出身の力士、鳳に由来するという。

ライト兄弟が世界初の動力飛行に成功したのは1903（明治36）年12月のこと。これに刺激された徳川好敏と日野熊蔵は、陸軍代々木練兵場（現・代々木公園）において、1910（明治43）年12月にフランス製複葉機で日本初飛行を成功させ、日本の空の歴史の幕が開けました。

同じ頃、奈良原三次は自作の「奈良原式2号飛行機」を自ら操縦して飛行に成功。国産機による初飛行を成し遂げました。

海軍を退き自由に空を飛びたいと願った奈良原は、稲毛海岸の干潟が滑走路に使えることを知り、1912（明治45）年に初の民間飛行場を稲毛海岸に開設します。

ここで奈良原は飛行機の製作や白戸栄之助、伊藤首次郎など後進のパイロット養成に努めました。



●稲毛の海水浴場

昭和初期の海水浴。稲毛浅間神社の鳥居は海の中に。



●神谷伝兵衛別荘

初期の鉄筋コンクリート造の貴重な建物は国の登録文化財に指定され保存されている。



●別荘風旅館 海気館

海岸沿いの松林の中にたたずむ海気館。

明治から大正にかけて保養地として人気を集めた稲毛。1888（明治21）年には千葉最初の海水浴場が開かれ、海水浴の医学的効果を説いた浜野昇により「稲毛海気療養所」も設立されました。風光明媚なこの場所は別荘地にもなり、療養所は後に別荘風旅館「海気館」となります。島崎藤村、徳田秋声、森鷗外といった文人たちが滞在し、多くの文学作品にもその名前が登場します。

「日本のワイン王」と呼ばれた神谷伝兵衛も、1918（大正7）年にこの場所に洋風の別荘を構えました。1921（大正10）年にはそれまでの総武線に加え、京成電気軌道が開通し、東京から海水浴や潮干狩りに来る客が増加、海岸には多くの旅館や店が立ち並び一大保養地となりました。